

生理人類士 認定制度の御案内

日本生理人類学会は、人類の本質に基づく、健康で快適な環境の構築、評価、問題解決に携わり得る人材育成のため、西暦2000年に生理人類士認定制度を創設しました。これまで多くの方々が生理人類士資格を取得し各分野で活躍されています。当委員会は、これまでの取り組みを踏まえ、資格内容の一層の充実を目指しています。

本制度の資格には下記3種があります。

- (1) アメニティプランナー
(生理人類士1級)
- (2) アメニティコーディネーター
(生理人類士準1級)
- (3) アメニティスペシャリスト
(生理人類士2級)

(1) および (2) は日本生理人類学会員の内、前者は企業や大学等において豊富な実績のある方々を、後者は現在御活躍中の方々を対象としています。また (3) は本学会への所属は問わず、大学、短期大学等の学生あるいは社会人など、広く対象としています。



目次

資格認定委員会委員長挨拶 P.1

指定校責任者挨拶 P.2

生理人類士の声 P.3

生理人類士2010年度資格認定者 P.4

資格認定委員会委員長挨拶

橋本修左(武蔵野大学)

生理人類士資格制度が2000年に始まり、今年で満11年を迎えます。その間、様々な試行錯誤がありましたが、資格認定指定校も全国で着実に増加しつつあり、資格認定制度として定着してきました。そして、2010年度までに生理人類士の1級(アメニティプランナー)、準1級(アメニティコーディネーター)、2級(アメニティスペシャリスト)のいずれかを取得された方々の延総計は1000名を超えました。現在の日本生理人類学会の全学会員数を上回る方々が生理人類士資格を取得されたことになります。生理人類士の方々がますます社会でご活躍されることを期待しております。

昨年11月には資格試験のために用意された「生理人類士入門」の5回目の改定・増補版が刊行され、これを講義テキストとして使用する大学も次第に広がりつつあります。資格制度の創設から始まる歴代の資格認定委員会の委員長・委員・指定校責任者をはじめ多くの学会員の方々の多大なるご尽力の賜です。この資格制度の発展が「生理人類学」という学問のさらなる普及と学会の理念実現のために少しでも貢献できればと願っています。

「生理人類士」資格認定者数

	1級 アメニティプランナー	準1級 アメニティコーディネーター	2級 アメニティスペシャリスト	総計
2000	6	5	24	35
2001	3	5	86	94
2002	3	16	134	153
2003	0	5	95	100
2004	2	12	113	127
2005	0	14	110	124
2006	0	12	91	103
2007	4	12	57	73
2008	3	9	78	90
2009	6	5	63	74
2010	5	5	82	92
計	32	100	933	1065

指定校認定申請要領

生理人類士指定校に認定されると、受験者には特典が与えられます。（指定校の認定を受けるには、カリキュラムにおいて、受験資格要件を満たす科目が開講されている必要があります。）

認定を申請される場合、下記①～③を封筒に入れ、「指定校認定申請書在中」と朱書き、事務局へ郵送して下さい。当委員会では速やかに審査を行い、結果についてお知らせします。なお、デジタル化した文書の送信による申請も可とします。手続その他において不明な点があれば、事務局に照会して下さい。

①指定校認定申請書（様式B-1※）

代表者の署名と押印を必要とします。代表者には各教育機関の事情に応じて適切な人物を充てて下さい。なお、指定校責任者は代表者となることができます。指定校責任者の役割は、受験者の統括、試験問題の管理、試験の実施、試験監督等です（認定制度規程※参照）。

②資格要件に関わる開講科目一覧表（様式B-2※）

生理人類士準1級および2級における受験資格要件に該当する、開講されている科目のリストを作成してください。単位数は各教育機関の学則に準じるものとします。不明な場合、事務局に照会して下さい。なお、一人の指定校責任者の下、複数の学科あるいは専攻をまとめて申請することができます。その場合、学科あるいは専攻ごとに書類（様式B-2※）を作成して下さい。

③返信用切手（120円）

※学会ホームページにてダウンロード出来ます。



指定校責任者挨拶 『継続は力なり』

長野県短期大学 生活環境専攻
前田亜紀子

2007年に短期大学では唯一、生理人類士の受験資格指定校として認定いただき、過去4回の試験にて、のべ23名の合格者となった。1学年44名の小さな公立短期大学としては、まずまずの数字かと思われる。この間、専攻内教員2名の交代があり、資格要件に該当する科目を見直す時期にあるようだ。

本学には「生理人類学」そのものの科目はないが、2009年後期からは、当方にて「環境生理学」、2010年度からは「衣環境と人体生理」、「生活環境とアメニティ」が開講した。これにより受験者の倍増を期待したが、本年度は3名と

ふるわなかった。この最大の理由は、受験時期にあると責任逃れしつつ、専攻内の科目だけでなく、全学履修科目で資格に関連する科目がないか、今一度確認しなければならぬ。

というのも、短大1年前期だけでは、受験資格要件の単位を修得できず2年後期の受験となる。さらに受験申込時期となる10月では、昨今の厳しい社会状況から受験を踏みとどまってしまう（就職試験とのバッティングなど）。何より資格取得を履歴書に記入できないのでは強く勧められない。こうした状況でなお受験する学生は殊勝である。

見直しは随所で常に必要である。今年度はテキストが大幅に改訂され、質・量ともに充実した。試験案内に興味をもった学生がたずねて来ると、テキストを見せて説明する。授業で学んだこと以外の広い出題範囲に、受験を躊躇する学生も多い。そこで、合格必勝講座を開講していることや、先輩たちの合格率100%の話しをする。

本学では卒業式後の保護者を交えた専攻会で認定証を授与している。学位記だけでなく、2年間の学問の成果が形となった瞬間、ちよっぴり誇らしげな顔をのぞかせるのが、こちらもうれしい限りである。

2010年度表彰者氏名

<準1級>

今泉弘美(武蔵野大学)・堀江悠希子(福岡女学院大学)

<2級>

野田莉可(金城学院大学)・木戸孝(東北文化学園大学)・成重春香(福岡女学院大学)
内山裕子(実践女子大学)・立身美希子(武蔵野大学)・久保田真由美(武蔵野大学)
窪田教恵(長野県短期大学)

生理人類士の声

生理人類士準1級

今泉弘美さん(武蔵野大学) 世界が変わる学び(生理人類士準1級を受験して)

私が生理人類士を受験したのは、現在の仕事である企業内の産業保健の仕事と密接に結びついており、このことについて学ぶことは必ず役立つに違いないと考えたからでした。テキストや関連する科目を学ぶにつれて、仕事に役に立つことはもちろん、生理人類学は人間が生きていく上で知っておく必要のあるものばかりだと感じました。人類が生まれ生きていく過程、そのことそのものを科学する学問だと気づきました。

学ぶことの楽しさや興味深さに気づいてしまえば、これまで自分が知っているとっていた世界の意味が少しずつ変化していくのがわかります。ビルの扉の配置、車椅子用のスロープ、街なかの工事現場、室内環境測定の資料、聞くもの、見るもの、触れるもの。自分の周りに何気なく存在していたはずのそれらは、生理人類学の視点を持つことによって今まで以上に意味を持ち、生き生きとたくさんの問いを投げかけてくるようにも感じます。

とはいえ現状は、生理人類学の扉を叩き、少し開いた門の前にやっと立たせていただいたところに過ぎません。今後は更なる学びを深めつつ、少しずつでも周囲に還元できたらと願います。

生理人類士2級

野田莉可さん (金城学院大学)

私がこの検定を受けようと思った理由は、この検定の説明に「あらゆる人が暮らしやすい生活環境の提案できる検定」と書いてあっ

たからです。それを読み、私もそんな風になりたいと思いました。

そして勉強を始めると生理人類学は体の構造からヒトの歴史までを学べるというものでした。始めは知らない用語がたくさんあり難しいと感じましたが、読んでいくうちに体の構造のところは納得したり、その他のところは驚きを感じたりと楽しんで勉強することができました。

そして、私はこの検定をもっとたくさんの人に知ってもらい、みんなで快適な生活を送れるようにするための手伝いをしていきたいと思いました。

木戸孝さん (東北文化学園大学)

私は東北文化学園大学に在学しているのですが、住環境デザイン学科(現在の“人間環境デザイン学科”)に編入学するまでは医療福祉学部で学んでいました。そこでは生理学を勉強していたので、この生理人類学でも多くの共通点を見たのですが、この学問は生理学だけではなく衣食住などの幅広い分野も含んでいることに強い魅力を感じました。人類の歴史も学びましたが、今後はますます人間と人間を取り巻く環境との関係は複雑化していくと思います。文明の発展は同時に様々な問題を内在させているので、それを多角的かつ客観的な視点から考えて解決策を導く学問として、この生理人類学の更なる進歩と発展を願います。

成重春香さん (福岡女学院大学) アメニティ2級資格を取得して

私は大学に入学するまで

「生理人類学」や「アメニティ」といった言葉自体を知りませんでした。しかし、大学で生理人類学の講義を受講し、自分の生活の身近な環境についてなど大変興味を持ちました。そこで、福岡女学院大学にはアメニティの資格があるのを知り、大学生でないと取得できない資格であることからこの機会に受験することにしました。

夏休み前にテキストが配布され、勉強を開始しましたが最初は難しい内容で問題は解けず、理解するまでが大変でした。しかし、難しい問題も少しずつ進むことができました。なぜなら、内容の全てが自分(人間)やその生活に関することなので、自分と結び付けやすかったためだと思います。自分(人間)とその周囲の環境の関係を自分の身体で感じることを中心と考えていくことに今の自分、そしてこれからの自分に必要なことだと考えるようになりました。アメニティ資格の勉強で、自分の生活を今までと違った目で見えるようになったように思います。

住吉茉莉亜さん (実践女子大学) 私が受験した理由

三年の前期に「生理人類学」、後期に「生理人類学実験」があります。私は山崎ゼミに所属しているので半ば義務感から履修したのですが、途中で断然面白いことに気づきました。

実験では多くの器材を使って環境や仲間について測定しました。グラフに描くことで自分の位置が把握できます。特に印象に残っているのは、皮膚に関する実験シリーズで汗腺を観察したことです。自分は汗かき

であると思っていたら、実際その通りでした。

氷点下30℃の中でラーメンを食べ、シャボン玉を作りました。グラウンドでは熱気球を上げたり、ジャンピングブーツを体験したりしました。先生によれば、人類のやること全てが生理人類学の研究テーマになるそうです。

私は講義と実験を通じて生理人類学の面白さを知り、受験することにしました。

立身美希子さん (武蔵野大学)

生理人類士について

ヒトはより良く生きようとする。良く、とは生理的欲求、社会的欲求、自己実現欲求など様々な欲求を満たし、さらにその過程に快適性を求めるという意味合いである。科学技術を駆使するテクノアダプタビリティは、人間が恒常的に活動できる場面や時間を飛躍的に広げ、このことにより、人間は社会的欲求や、

特に自己実現欲求に対して、追求する機会を得られている。しかし、自然環境とかけ離れた人工環境にはテクノストレスがあふれだした。テクノアダプタビリティに表されるように、

良く生きようとする人類は、克服すべきストレスを自ら生み出す段階に入った。はたしてその克服は次につながる有益なストレスを生むだろうか。人類が獲得してきた環境適応能や生理的多型性を念頭に人工環境をデザインしていくのが生理人類士の役割だと考えている。また、個人の心理的発達を考える時、私は生理人類学の視点を土台としていきたい。それは、環境に対する全身の

⇒次ページへ



投稿記事募集

生理人類士資格を取得された皆さまへのお願い

生理人類士資格を取得し、その後どのような仕事を行っていますか？生理人類士として、社会で活躍されている方の経験談や、生理人類士の資格をどのように活かしているかについてなど、「アメニティの機関紙」への投稿を随時募集しております。

事務局宛まで投稿原稿をE-mailで送っていただくか、テキスト形式で入力されたものをご郵送下さい。

今後、このアメニティの機関紙を生理人類士同士の情報交換の場としてご活用いただければ幸いです。

生理人類士認定委員会 事務局および問合せ先

〒169-0075
東京都新宿区高田馬場
4-4-19
(株) 国際文献印刷社内

TEL : 03-5389-6218
FAX : 03-3368-2822
e-mail :
jspa-post@bunken.co.jp

協関の元に適切な認知がなされ、また、認知がゆがめばホメオスタシスを維持するのは困難になるからである。まずは、土台とし得るだけの生理人類学的知識を身につけていきたい。

久保田真由美さん (武蔵野大学)

生理人類士資格受験の成果

私が学ぶ武蔵野大学通信教育部は指定校であり、カリキュラムにおいて受験資格を満たす科目が用意されていて、履修により受験資格が満たされます。このことにより、履修選択する際にも、生理人類士の基礎を固める方向性が目指せます。しかし、生理人類士のテキストを開いてみると、更なる幅広い知識が広がっており、生理人類士に限らず資格取得制度は、知識の幅を広げる良い機会となります。大学のカリキュラムだけでは満たされない知識・教養を広げるためにも、生理人類士資格制度は

一役を担ってくれるものであり、受験後、まだまだ学ぶべき知識や分野があるということの認識にもなりました。私が受験したアメニティスペシャリストは生理人類士において入門的な資格かもしれませんが、生涯を通じて課題となる人間理解と人間と環境の快適性の追求の資となる資格であると思います。

窪田教恵さん (長野県短期大学)

私は、生理人類士2級（アメニティスペシャリスト）という資格を、授業をきっかけに知りました。人体と生活環境に関わる事柄について、生理人類学という学問を通じ学ぶことは、生活の様々な事象に対して裏付けを持つことができ、現在の生活を、より充実できると思い興味を持ちました。また、私が所属している生活環境専攻では、取得した単位を資格に活かせる聞き、授業をさらに深め

る気持ちでこの試験に臨みました。

実際にテキストを開いてみると、普段は見過ぎていた事象のメカニズムを知ること、生理人類学という学問に驚きと感動を抱き、生活に対する新たな好奇心を持つことができました。一方で、テキストの内容は高度な部分もあり、文章からだけの理解が難しいため、図にしてメカニズムを学ぶところもあり内容の濃い試験勉強となりました。

私は春から初等教育学を学びます。生活環境とは異なる分野ではありますが、人間と生理人類学は表裏一体であり、人類が進化し続けるように、生理人類学も発展し続けると考えます。今回学んだことを基本として、これから未来に生きる子どもたちにとって、より良い生活をアメニティスペシャリストとして提案できるように、これからも精進していきたいと思っています。

生理人類士 2010 年度資格認定者

<1 級 合格者>

藤居由香

<1 級 特別認定者>

岡田明、曾根良昭、高崎裕治、市丸雄平

<準 1 級 合格者>

今泉弘美、島田紗樹、吉田真彩、久富友璃子、堀江悠希子

<2 級 合格者>

飯田奈穂、亀田護郎、中村裕子、小野正子、立身美希子、田島聡子、河野恭治、江口圭子、山下綾香、久保田真由美、榊田雅美、小山加奈子、高島二至子、五味川千代香、福田留美子、船内知子、日野由美子、小原文子、大木里香、藤田真代、吉永慎一、田中晴菜、渡邊南風、濱田彩織、佐藤翔平、加川このみ、宮川昂大、石井明日香、坂井由里子、野中真奈実、田原亜沙子、大河内賢二、宮田友理、共田幸弘、島袋真、上野愛実、鉾田章乃、岸理恵子、米川祥子、高橋由季絵、伊藤舞衣子、竹内奈津紀、石毛由佳子、新里亜利沙、前川祐基、長嶋龍紘、名倉雄嗣、稲田桃子、若尾柚佳、荒井美帆、大久保千穂、大熊沙織、小島佳織、須田絵美子、住吉茉莉亜、三浦朋子、武田奈生子、石川玉絵、北橋彩子、仲光梨衣、田平恵利子、大澤舞、光安瑠里、野田ふき子、森下絵理、成重春香、小原いくみ、林絵里子、古賀千尋、小野文薫、有川まどか、山鹿洋子、橋原寛子、野田莉可、猪子麻紀、鎌倉美里、窪田教恵、栗原菜保美、菅野晃久、上野真祐子、木戸孝、二科妃里